

●水環境・海域 (1) (2-B-10-4~2-B-11-4)

本セッションでは、アナモックス微生物、バクテリアの群集構造の詳細な調査に基づく報告が1編ずつ、アマモの大量生産技術と移植後の生物生息機能に関する調査報告が1編、有機泥凝集物がアラメの生育に及ぼす影響を調査した報告が1編、栄養塩の添加による植物プランクトンの増殖、種組成の変化を調査した報告が1編あった。

2-B-10-4は、干潟に生息するアナモックス微生物の種構造を詳細に調べた意欲的な研究であった。今後は、得られた情報を底泥の評価や改善にどのようにして利用していくかが重要となる。2-B-11-1も海水中と堆積物中のバクテリア群集構造を詳細に調べた研究であり、多くの貴重なデータが得られた。周辺環境とバクテリア群集構造との間のメカニズムに関する研究がますます進んでいくものと期待される。

2-B-11-2は、アマモ種苗の大量生産技術を開発し、そのアマモを移植すると生物生息機能が高まり、食物連鎖を通して高次の大型魚類等が増加するとの報告であった。アマモ場形成の成功事例であり、そのノウハウが全国のアマモ場形成に生かされることを期待したい。2-B-11-3は、有機泥凝集体により、アラメの藻体が衰退するという観測事例を示した報告であった。「磯荒れ」現象のメカニズムを理解するためには重要な研究課題であり、今後は有機泥凝集体の発生メカニズムを明らかにすることが重要である。

2-B-11-4は、貧栄養海水に栄養塩を添加し、植物プランクトンの増殖効果や種組成の変化を調査した報告であった。栄養塩の添加と、どの植物プランクトンが増殖するかに関する因果関係が示された。今後は、栄養塩の添加量と植物プランクトンの成長速度との関係を調べ、定量的な議論がなされることを期待したい。

(東京大学 生産技術研究所 北澤 大輔)